

令和5年度 第4回 水窪小・中学校運営合同協議会 会議録 (要点記録)

- 1 開催日時 令和6年2月14日(水)13時30分から16時30分まで
ただし、14時55分までは授業参観
- 2 開催場所 水窪小学校 調べ学習室
- 3 出席委員 塩崎 正敏、田中 裕彦、金田 和代、柳田 温、高木 園乃、西岡 小百合
牧内 真美、尾嶋 光伸、平澤 文江
- 4 欠席委員 山本 功、石本 駿輔、伊藤 温
- 5 学 校 浮田 佳昭(水窪小校長)、新 英樹(水窪小教頭)、太田 陽三(水窪中教頭)
遠見石 範子、内山 由紀(CSディレクター)

6 傍聴者 なし

7 協議事項

- (1) 議長の選出について
- (2) 小中学校評価、CS委員学校教育アンケートについて
- (3) 学校運営協議会自己評価について
- (4) いじめ防止基本方針の取組について
- (5) 令和6年度の学校経営について

8 会議録作成者 CSディレクター 内山 由紀

9 会議記録

司会の水窪小学校教頭から、委員総数12人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 議長の選出について

司会から、塩崎委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

(2) 小中学校評価、CS委員学校教育アンケートについて

議長の指示により、水窪小学校教頭から、別紙資料に基づき令和5年度CS委員の学校教育アンケートの結果について報告があった。また、児童、保護者、職員の学校評価アンケート結果について、達成できた項目や課題点について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・保護者や先生の評価アンケートを受けて、一生懸命頑張っているんだなと感じた。(柳田委員)
- ・子ども教室では、宿題をやっていこうという形にしている。自分の力で解決することができるという点については、自分の力でやっている。(金田委員)

水窪中学校教頭より、別紙資料に基づき生徒、保護者、職員の学校評価アンケート結果について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・小中学校共に、問題解決のところが低い。小中だけでなく社会全体がそうってきている。自分たちの頃と何が違うかということ、手厚さである。今の学校教育は、先生が手助けしてくれる。とてもいいことだが、水窪のような小規模のところは特に多いのではないか。逆に人数が多い学校へ行くと、先生の目が行き届かない。自分でやっていくしかない危機感がある。先生たちも難しいかもし

れないが、そういった危機感をもたせるのも問題解決になるのではないかと思います。(尾嶋委員)

- ・情報モラル、情報リテラシーについて、中学生、特に女子でSNS中傷が散見されていることがわかっている。水窪ではないが、全体的に問題になってきているのは、親が事をややこしくすることである。情報モラル、情報リテラシー教育をするときに、参観会の中で取り扱い、親御さんと一緒に話を聞く機会を増やしてもらえたらと思う。また、たくさんの中学生在ボランティアに参加してくれている。学校評価アンケートで自己管理能力が低いと出ていたが、ボランティアの受け入れ団体としても、生徒の累積時間の管理という面で感じている。(平澤委員)

(3) 学校運営協議会自己評価について

議長の指示により、水窪小学校教頭から、別紙資料に基づき学校運営協議会自己評価について、説明があった。水窪の現状を踏まえ、来年度も本年度の目標を継続していくことが決定した。

(4) いじめ防止基本方針の取組について

議長の指示により、水窪小学校教頭、水窪中学校教頭から、いじめ防止への取組について説明があり、委員から、以下の発言があった。

- ・先生方がご苦労されているとわかった。家庭でも気を付けて見ていく。先生方には感謝しかない。
(田中委員)

(5) 令和6年度の学校経営について

議長の指示により、水窪小学校校長から、別紙資料に基づき令和6年度小中学校一貫教育学校グラウンドデザインについて説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・生徒が少なくなっている。不安がある。(高木委員)

子どもたちが減っても、水窪は地域に支えられている学校である。魅力ある人、物、事、財産を生かしながら、自分の力で問題解決するような子どもを育てることが、人数が減っていくことへの改善につながっていければと思う。グラウンドデザインを見ていただくとわかるが、水窪でしかできない、水窪地域だからできる、それを外に向けて発信していく。ここで育つ子供たちを自信をもって送り出すようにしたい。(水窪小校長)

- ・学校運営方針の中で、小さいからできる、小さくてもできることはわかった。小さいからやらねばという辺りだと思う。水窪は温かみもあり、地域のふれあいもできると思う。子供たちが、大規模の高校や大きいところに行ったときに、もまれて小さくならないかが一番心配である。その辺をどのようにやればよいか。自分は分校から本校へ来て、いろいろな人がいることを実感した。大きな学校へ行くという体験もあるのか。(柳田委員)

オンラインも一つの手である。交流はできても、体験というと実際のところなかなか難しい。一人一人が夢に向かって自分を確立していく中で、自分に自信をもてる子であれば、周りに左右されることなく強い芯のある子になる。大きな学校に出たときに、一つの負けない自分になるのではないか。(水窪小校長)

- ・中学校では、高校や佐久間中学校と交流している。2年生では曳馬中学校へ半日行き、授業や部活動に参加させてもらっている。機会を作っていないといけない。(水窪中教頭)

- ・経験上、実際に感じた方がよいと思う。画面とは違うので是非機会を作ってもらえればと思う。

(柳田委員)

浜松市の陸上大会では、実際に交わる大切さ、経験しておく大切さを感じた。小さいからやらねばというところは、出て行く土壌を作るために本人が自信を持てる、しっかりした子を育てていく事ができることだと思う。機会を作っていきたいと思う。(水窪小校長)

- ・少人数制を生かしたり、小規模を生かしたり、大きなところにおいても負けない子供たちを育成するというところがグランドデザインによく表れていたと思う。来年度は、小規模校の対策について話し合う機会を多く設けてほしい。(平澤委員)
- ・市の総務課と話をしているが、学校を残す前提で動いている。話をしていくというのは、最もなことだと思う。対策はなかなか難しいことだとは思いますが、ここへ来る魅力を発信していく。(尾嶋委員)
- ・地域にしてみれば学校をなくしたくない。保護者の立場からすると、同級生が一人もいなくなったときに、自分の子供の立場なら喜べない。適切な成長の段階で、友達ともめたりもまれたり、磨き合うところに行きたいという保護者の気持ちもわかる。話す機会を作り、その意見の中から建設的なアイデアを積み上げていくことができるとお互いの希望につながるのかなと思う。協議会という枠組みでなくても機会を作っていってもらえればと思う。(平澤委員)

協議の結果、全員異議なく令和6年度水窪小中学校一貫教育グランドデザインを承認した。

(6) 報告事項

- ・議長の指示により、水窪中学校教頭から夢育やらまいかCS加算分の用途について報告があった。
- ・議長の指示により、令和6年度年間行事計画案について、水窪小学校教頭、水窪中学校教頭から報告があった。

その他連絡事項

- ・水窪中学校教頭より、卒業式・入学式の来賓について連絡があった。